

### 第3回 自動車運送事業に係る交通事故対策検討会 議事要旨

日 時：平成29年6月21日（水）10：00～12：15

場 所：合同庁舎2号館1階 共用会議室2A・2B

出席委員：酒井座長、相川委員、安宅委員、石川委員、榎元委員、小野委員、笠原委員、  
勝又委員、児島委員、高柳委員（代理 大林様）、西田委員、橋本（良）委員、  
堀野委員、村瀬委員

議事内容：次期事業用自動車総合安全プランについて

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、今後の方針及び次期事業用自動車総合安全プラン（以下、「新プラン」）の施策の目標値、内容等について意見交換が行われ、「事業用自動車に係る総合安全対策検討委員会」に諮るべき新プランの内容について概ね合意され、本日の意見もあわせて報告することとした。

委員及びオブザーバーから出された新プランの目標値、内容等についての主な意見は以下の通り。

- ・前プラン策定時の定性的な審議も参考にして目標を決めてもよい。
- ・運転支援装置をトラックはどんどん導入している。そういった要素を入れないのか。
- ・プランは長い期間で、長い目で見て目標がぶれない形にするのがよい。現在の目標はぶれずに延長していく考え方のほうが国民にもわかりやすい。
- ・現実をベースにしながら努力もするというのが適切な目標設定だと思う。バス協会としては、現実的であり努力して達成できるかどうか、手が届くような目標がよいということで、過去の減少率に基づき設定する案（以下、「案1」）がよいとの結論。
- ・交通事故件数と死者数のレベルが違い、交通事故件数のハードルが高いように思うが、提案された考え方の中では案1がよい。
- ・自転車を専門に扱う専門官がいて一緒に考えることがないと、自転車事故の問題は永遠に解決しないのではないかと。
- ・生活道路におけるカーブミラーの充実のキーワードが落ちているので入れてほしい。
- ・案1と、プラン2009の目標値を延長する考え方（以下、「案3」）を合体させたようなロ

ジカルな説明ができればよく、ロジックは非常に重要。高齢者の問題もあり数値目標を達成するのがますます厳しくなっている。

・先進安全技術というのはドライバーの正しい理解を基に使用される必要があり、間違っても装置があるがために安全運転に対する注意義務を怠っては意味がない。具体的施策の中では、先進安全技術や運転支援技術に対する教育、理解の促進という項目がないので配慮いただけるとよい。

・前プランの精神は受け継いでいく考えに基づいた目標設定がよい。

飲酒運転ゼロというのは各モード毎にあったほうがよい。あるいは「法令違反」ということでもよい。

・国民の立場からすると案1の数値が納得するような気はする。ただし、タクシーについては個人タクシー運転者の高齢化の問題もあるので事故件数9,511件は厳しいと思う。

・数値が出てしまうと目標を達成しなければならない。死者数がどれくらい減少するか難しいが、案1くらいがよいと思う。

・議論の俎上に上がってこないようなところの事業者についてもきめ細かに対策を行わないと目標を達成できない。

・事故自動通報というキーワードが入っていない。特に死者数を減らす、無くすということでは通報は重要。

・前プランの基本が間違っていないことが再確認できたのであれば、さらにバージョンアップするという形で補足的に案1,3を合わせて考える分にはよい。

・平成26年から一定の病気等に係る運転者対策が強化され、質問制度が始まっている。その制度がどこまで担保できているかの検証等、今後あってもよい。

・案1が、第10次交通安全基本計画の目標を十分に上回っているということを前提に賛同。

・お客様にも事故防止の意識を持っていただき一体的となって車内事故防止、安全文化を構築していくということが今後も大切。